

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 経済学研究科 |
| 大項目 | 9 教育研究等環境 (研究科) |
| 中項目 | |
| 小項目 | 9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 |
| 要素 | 教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保 |

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 授業形態、教材の多様化に伴う既存教室の機器などの改善を図る。 | →教室へのプロジェクター設置割合。教員の機器使用要求に応える度合い。 | B | B | C | | |
| 2. 会議など事務的負担を軽減することによって研究時間を確保する。 | →学部で設置する委員会数。メールによる持ち回り委員会の開催数。 | D | D | C | | |
| | | | | ☆ | | |

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

| | |
|-------|--|
| 目標1 | 機器の配備は概ね昨年度までで完了しており、次年度、経済学部棟内の稼働率の悪い教室(スクール形式固定機)を可動式の教室へと変更(3教室)する予定である。少人数による大学院の場合、報告会、ワークショップ、研究会等に適した広さであり利用が予想される。 |
| ☆ 目標2 | 委員会数の見直しによる統廃合を行い、2011年度 30組織(委員数のべ165名、平均担当数3.11)から2012年度 22組織(委員数のべ124名、平均担当数2.34)とした。(経済学部の項目に同じ) |
| 備考 | |